

「 50年前高校3年の夏 母校 県立尼崎高校

高校野球 兵庫大会 準優勝の記録 」

捕手一筋 裏方精神を胸に

最高齢・最高のグリーンキーパーをめざす

平成24年3月 捕手一筋

加司 淳



若き日 ポールを追っていた時代

加司 淳

【ラジオ番組投稿録】

捕手一筋裏方精神を胸に 最高齢 最高のグリーンキーパーをめざす

グリーンキーパー 加司 淳




番組録音

ABC朝日放送「おはようパーソナリティ道上洋三です」 2011.10.12.放送
【いわせてもらうならば「生涯捕手一筋」より】

いわせてもらうならば グリーンキーパーの立場から



再生: 上記左端の  にマウスの↑を乗せてクリックしてください

<http://www.infokkna.com/ironroad/2012htm/walk9/1204kajiabc.wav>



同窓会 ありがとう
術後心臓が弱っているし、今回は是非皆に会いたくて。
みんなに会えて満足しています。

捕手一筋の裏方精神で人には謙虚に何事にも積極的に
50年間頑張ってきました。

お世話になった母校「県尼」を全国にABCラジオでPRし、
少しでも恩返しできました。

そのCDを県尼37会の少しでも多くの方に聞いていただき、
何かを感じ、体を大切にしていれば幸いです。

2012.3.28. 加司 淳

1. 記憶が蘇ってくる昭和36年7月 高校野球夏の決勝戦 甲子園球場

あの 熱戦の光景と興奮がいまもありありと目に浮かぶ

報徳、初の栄冠！！

昭和36年夏 高校野球兵庫大会 決勝

県立尼崎高校/報徳学園

県立尼崎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
報徳	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	×

県立尼崎	報徳
6 岡本 4 1 0 0	8 内藤 4 2 0 0
9 本家 4 0 0 0	9 藤江 3 1 0 0
4 本家 4 0 0 0	9 貴田 0 0 0 0
2 福良 4 1 0 0	7 大野 4 1 0 0
8 加司 2 0 0 0	5 藤田 4 1 0 0
3 垣添 1 0 0 0	6 清井 2 0 0 0
7 坂本 3 0 0 0	3 吉村 3 1 0 0
1 中前 1 0 0 0	2 高橋 4 1 0 0
1 野村 1 0 0 0	4 谷口 2 0 0 0
5 北原 3 0 1 1	4 小田 2 0 0 0
	1 酒井 3 1 0 0

報徳が創部30年にして悲願の優勝旗を手に入れた。
報徳は4回先頭打者、藤田が無死から三連塁を破る内野安打。続く清井の送りバントで二塁に進めた。
2死後、高橋は県立尼崎の先発中前の2球目をカーブ振り抜いた。打球は遊撃手、岡本の左を抜けセンターへ転がって行く。
報徳の三塁コーチー 西川の右手がぐるぐる回る。2塁走者藤田は三塁ベースを蹴って本塁へ。
センター 福良からの返球も及ばず藤田は本塁にヘッドスライディング！先制点を挙げた。
さらに6回の裏、報徳は一死後清井が敢死で生きたとすかさず2盗。続く吉村の右前通時打で貴重な追加点を挙げた。

県立尼崎は初回、2回、5回と先頭打者を出すがいずれもバントに失敗。
さらに2回には報徳の二塁手谷口が右を抜けようかという安打性の当たりを逆シングルで好捕、目の前を走る加司にタッチ、すぐ1塁に送球して垣添もアウトにするという美技もあり、試合の主導権を奪えなかった。
3回以降は立ち直った酒井投手の連球の前に一四球の出塁のみと抑えられた。
バントにことごとく失敗した県立尼崎に対して報徳は機動力を使った攻撃と再三見せた好守で酒井をもり立て、初の栄冠に輝いた

第43回	1961(昭和36)年
兵庫	県立尼崎
2回戦	○ 3 - 2 洲本
3回戦	○ 1 - 0 社
4回戦	○ 7 - 0 県伊丹
準々決勝	○ 5 - 2 滝川
準決勝	○ 5 - 3 尼崎北
決勝	● 0 - 2 報徳学園

その後の甲子園夏の大会で 報徳は甲子園球史に残る大逆転

甲子園史上に残る大逆転！
報徳11回裏、怒濤の攻撃！！

全国高校野球選手権大会、1回戦

倉敷工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0
報徳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	1

朝日新聞 報徳学園 昭和33年～兵庫大会戦績より

<http://www.ne.jp/asahi/hotoku/mypage/MyPageS3.htm>

熱風砂を撒く時も 峻烈の風吹く時も

我等はさらに勢いたち 牡獅子のごとく行かんとす
おお尼高 人と燃ゆる 若き命を讃えばや
フレー尼高 フレー尼高 フレー オー オー



2. 【ラジオ番組投稿録音】

捕手一筋 裏方精神を胸に 最高齢 最高のグリーンキーパーをめざす

グリーンキーパー 加司 淳



ABC朝日放送「おはようパーソナリティ道上洋三です」

【いわせてもらうならば「生涯捕手一筋」2011.10.12.放送より】

「[いわせてもらうならば グリーンキーパーの立場から](#)」

<http://www.infokkna.com/ironroad/2012htm/walk9/1204kajabc.wav>



同窓会 ありがとう

術後心臓が弱っているし、今回は是非 皆に会いたくて。

みんなに会えて満足しています。

捕手一筋の裏方精神で 人には謙虚に 何事にも積極的に
50年間頑張ってきました。

お世話になった母校「県尼」を全国にABCラジオでPRし、少しでも恩返しできました。

そのCDを県尼37会の少しでも多くの方に聞いていただき、

何かを感じ、体を大切にいただければ幸いです。

2012.3.28. 加司 淳

インターネット home page に 放送録音 ならびに 記事があります

◎ 県尼37会 home page 加司淳さん [3年1組] の投稿録音

グリーンキーパー 加司 淳「生涯捕手一筋 裏方精神」を胸に

<http://www.infokkna.com/ama37kai/2012/1203kaji00.htm>

◎ 「和鉄の道・Iron Road」 by Mutsu Nakanishi home page From Kobe 2012. 4月 2012.4.1.

<http://www.infokkna.com/ironroad/2012htm/wak9/1204kobe00.htm>



若き日ボールを追っていた時代



昭和36年夏 兵庫大会決勝を戦ったメンバー
卒業50年記念同窓会で 2012.3.7.



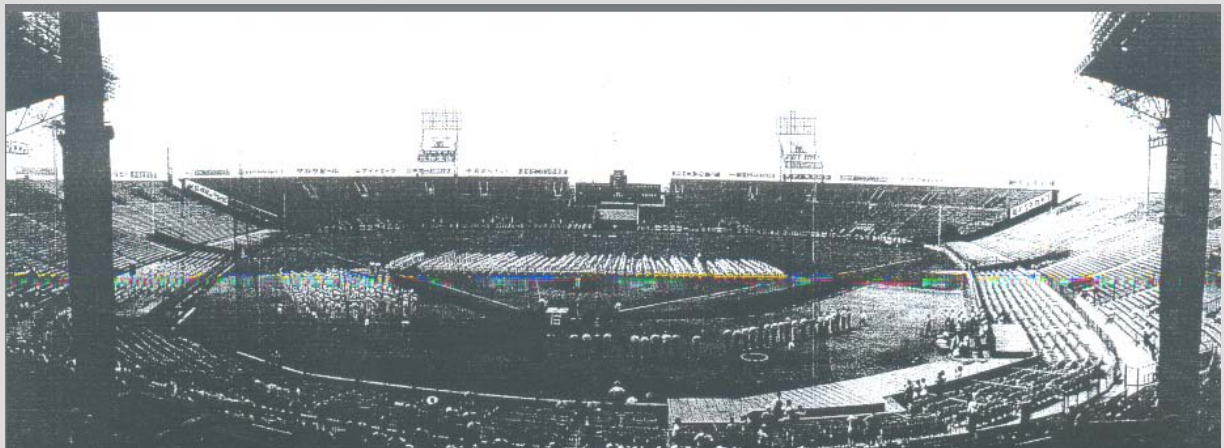
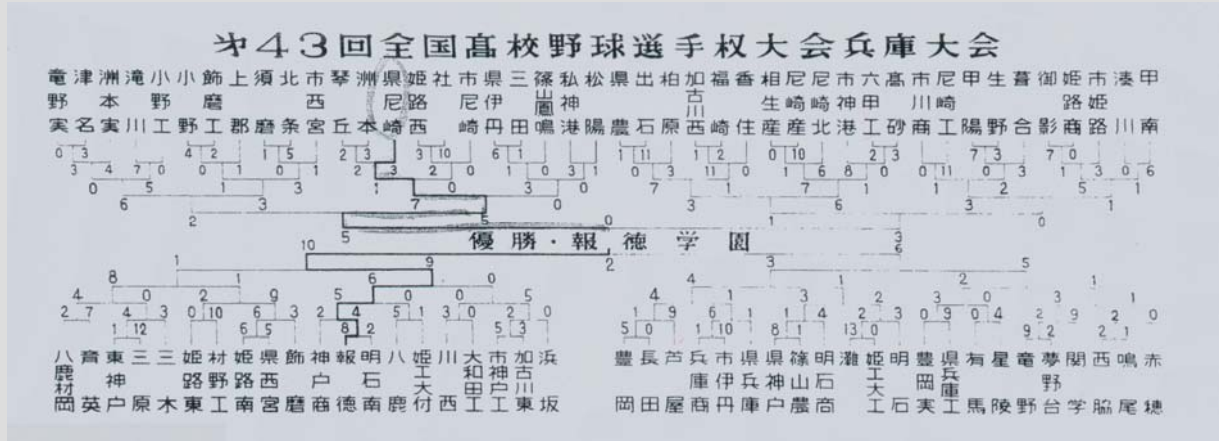
2011.7月 兵庫大会 県尼 スナップ より



現在の県立尼崎高校 正門前 2012.3.7.

「昭和36年夏 県立尼崎高等高校 準優勝」の記録

平成24年3月30日作成 生涯捕手一筋 加司 淳



報徳、初の栄冠！！ 県立尼崎高校準優勝

昭和36年夏 高校野球兵庫大会 決勝

県立尼崎高校/報徳学園

県立尼崎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
報徳	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	×

県立	報徳
6 岡本	4 1 0
9 純	4 0 0
4 本家	4 0 0
8 福良	4 1 0
2 加司	2 0 0
3 垣添	1 0 0
7 坂本	3 0 0
1 中前	1 0 0
1 野村	1 0 0
5 北原	3 0 1
	8 内藤
	9 磯江
	9 真田
	7 大野
	6 藤田
	6 清井
	3 吉村
	2 高橋
	4 谷口
	2 小田
	3 酒井

報徳が創部30年にして悲願の優勝旗を手に入れた。

報徳は4回先頭打者、藤田が無死から三遊間を破る内野安打。続く清井の送りバントで二塁に進めた。2死後、高橋は県立尼崎の先発中前の2球目をカーブ振り抜いた。打球は遊撃手、岡本の左を抜けセンターへ転がって行く。報徳の三塁コッチャー 西川の右手がぐるぐる回る。2塁走者藤田は三塁ベースを蹴って本塁へ。センター 福良からの返球も及ばず藤田は本塁にヘッドスライディング！先制点を挙げた。さらに6回の裏、報徳は一死後清井が敵方で生きたすかさず2盗。続く吉村の右前適時打で貴重な追加点を挙げた。

県立尼崎は初回、2回、5回と先頭打者を出すがいずれもバントに失敗。

さらに2回には報徳の二塁手谷口が右を抜けようかという安打性の当たりをシングルで好捕、目の前を走る加司にタッチ、すぐ1塁に送球して垣添もアウトにするという美技もあり、試合の主導権を奪えなかった。

3回以降は立ち直った酒井投手の連球の前一四球の出塁のみと抑えられた。バントにことごとく失敗した県立に対して報徳は機動力を使った攻撃と再三見せた好守で酒井をもり立て、初の栄冠に輝いた。

第43回	1961(昭和36)年
兵庫	県立尼崎
2回戦	○ 3 - 2 洲本
3回戦	○ 1 - 0 社
4回戦	○ 7 - 0 県伊丹
準々決勝	○ 5 - 2 滝川
準決勝	○ 5 - 3 尼崎北
決勝	● 0 - 2 報徳学園

その後の甲子園夏の大会で 報徳は甲子園球史に残る大逆転

甲子園史上に残る大逆転！ 報徳11回裏、怒濤の攻撃！！

全国高校野球選手権大会、1回戦

倉敷工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	(延長12回)
報徳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	1	

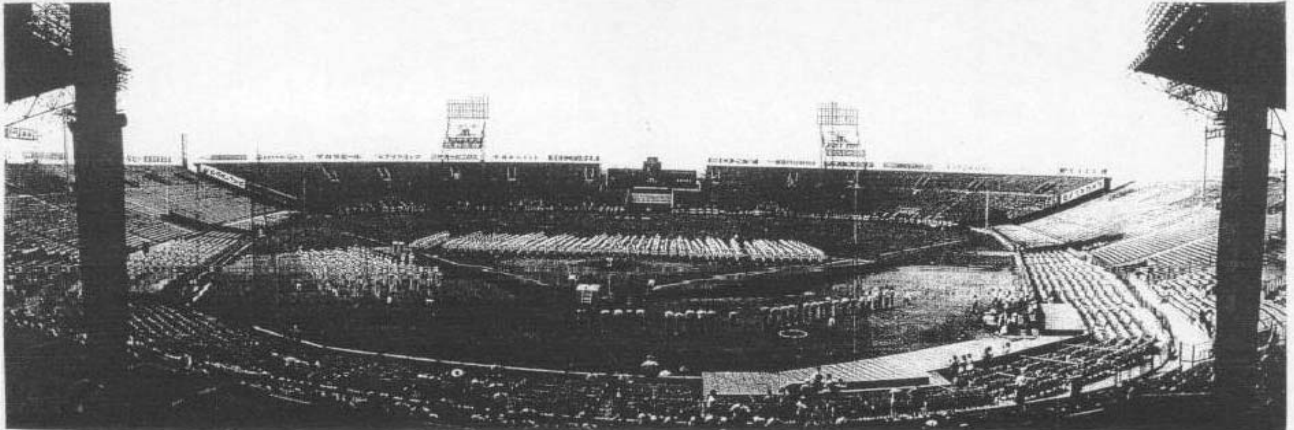
朝日新聞 報徳学園 昭和33年～兵庫大会戦績より

<http://www.ne.jp/asahi/hotoku/mypage/MypageS3.htm>

第43回全国高校野球選手権大会兵庫大会

電津洲滝小小飾上須北	野本実	川工	工野工	郡野工	条野工	宮野工	五野工	本野工	西野工	市野工	琴野工	洲野工	姫野工	社野工	市野工	伊野工	丹野工	三野工	篠野工	松野工	島野工	出野工	柏野工	加野工	福野工	香野工	相野工	尼野工	市野工	六野工	高野工	川野工	市野工	尼野工	甲野工	生野工	暮野工	御野工	姫野工	市野工	凌野工	甲野工																				
実名	実川	工野	工野	郡野	条野	宮野	五野	本野	西野	市野	琴野	洲野	姫野	社野	市野	伊野	丹野	三野	篠野	松野	島野	出野	柏野	加野	福野	香野	相野	尼野	市野	六野	高野	川野	市野	尼野	甲野	生野	暮野	御野	姫野	市野	凌野	甲野																				
0	3	4	7	0	4	2	1	5	1	2	3	3	10	6	1	0	3	1	0	11	3	2	11	0	0	10	6	8	2	3	0	11	6	3	7	3	7	0	3	1	5	1	0	6																		
																										優勝・報徳学園																																				
4	8	1	1	1	1	6	9	0	5	0	1	0	0	2	5	0	4	4	1	3	4	2	3	0	3	0	4	2	3	9	1	0																														
2	7	4	3	0	10	6	3	2	4	2	1	3	0	2	5	3	0	5	0	9	1	1	8	1	13	0	3	0	9	0	4	9	2	9	2	1																										
八鹿材岡	高東	神路	三野	三野	姫野	村野	野野	西野	戸野	報野	明野	八野	川野	大野	和田	市野	加野	古野	濱野	豊野	長野	芦野	兵野	市野	伊野	兵野	神野	山野	石野	農野	高野	豊野	明野	大野	石野	美野	兵野	馬野	陵野	野野	台野	学野	脳野	尾野	徳野																	

昭和36年夏兵庫大会県立尼崎高校準優勝



応援ありがとう

全校生の応援のおかげで
バッテリーホックスで有名な前かよく
闘って活躍することが出来た

第43回全国高校野球選手権大会兵庫大会

県尼対報徳 決勝戦 甲子園球場

キャプテンの本家を中心に 福良、岡本、坂本、北原、加司が大活躍した。準優勝の悔しさをバネに頑張ってきた今年だからこそ、今の立派な6人があり、準優勝で良かったことに気が付いた。

兵庫大会 3回戦 県尼崎 1-0 社

昭和36年7月27日 木曜日 享月 日 第11日

「社」は名門 県尼に屈した。

9時 甲子園球場
審判 天羽生、大出、金清
11時 明石商、明石
審判 金清、天羽生、大出

きょうの試合

▽甲子園球場
県尼崎 1-0 社
 兵庫工 3-0 星陵
 市姫路 5-1 甲南

高校野球 兵庫大会

第 11 日

一、友 県南野連の理事
会もこの日開かれ、市
神部一層北の延長方
にともなう日程の変更について協議し結果、決勝戦は
八月二十午後四時半から甲子園球場で行なうことに決め
た。それまでの日程は次の通り変更される。
四回戦 十八日甲子園二試合、神戸市東二試合▽二十
九、三十日神戸市民各二試合（いずれ午前十時から）
◇遠征決勝 三十一日甲子園（空前八時半から）◇準決
勝 八月一日甲子園（午前九時から）

甲子園球場 社、1点に泣く 兵庫工は星陵に打ち勝つ

点	0	0	0	0	0	0	0	0	0
安打	0	1	0	0	0	0	0	0	0
打	3	3	4	4	3	3	1	2	1
本塁打	0	0	0	0	0	0	0	0	0
犠打	0	0	0	0	0	0	0	0	0
犠飛	0	0	0	0	0	0	0	0	0
盗塁	0	0	0	0	0	0	0	0	0
失点	0	1	0	0	0	0	0	0	0
失誤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
四球	0	0	0	0	0	0	0	0	0
投	9	3	0	1	4	2	9	4	1

① 社は、二回と九回を除いて毎回走者を出し、押し気味に試合を進めながら一点をかえせず、山本(連)の好投もあって名門県尼に抑した。社の好投手は、一回早くも登板した。彼の出振(連)が中継に登板して、田の野打で二進退、三退、一退に生きて一死、二死、三死を攻めつけた。しかし、四回、五回の五番の勝負が、社に有利に終わった。このあと四、五、六回は、それぞれ先頭の打者が敬退、安打、四球で出塁、とくに六回は、響打で二塁に進めながら次打者の遊ゴロで三塁を奪んで刺され、このあと左前安打が出るというまさに攻め方で、みずから得点の好機をつぶしたのが惜しまれる。県尼投手、社山本(連)投手の活躍、カーブに苦しまられ、四安打に終わったがうち二安打が七回に集まり、しかも三死後加司の二塁打が出るという球運に恵まれて辛勝した。社は五安打を放ったが、敬退に終わり、九人の走者を塁に残す結果となった。社に、あと一押し打力があつたらしく惜しまれる。

「社」は名門 県尼に屈した。
 投手の中前、野村は せむ点で良く頑張り大活躍した。
 二死後加司の二塁打で貴重な1打点で強い社に勝利は
 バッテリーで大活躍した。
 後に 社の山本(連)投手は阪神タイガースに入団し活躍した

兵庫大会 準決勝戦 県尼崎 5-3 尼崎北

言宣 宣 宗斤 宣

坂本のバット宗斬と北原のバット茂功が一足Kつなつた。



高校野球

準決勝

錦旗の本勝負をいなくもは県尼崎か、それと報徳か。言宣高校野球兵庫大会は二日、最終日を迎え午後零時三十分から甲子園球場で決勝戦が行われる。都主代理の栄者はくくも地元阪神同士の争いとなったが、県尼崎が勝てば、さき三十一年の二年度目。報徳が勝てば初の「甲子園出場」となる。即十七日の一日甲子園球場で、準決勝二試合が行なわれたが、白熱の攻防に打野スタンドを揺る大歓声から盛りだ拍手がわいた。第一試合、県尼崎「尼崎北」は県尼崎が四回の裏中攻戦と巧みな投手リレーで必死に反撃する徳勝堤補尼崎北を破った。第二試合兵庫工「報徳」は投手の不調から前半に6-0で大差をつけられたが報徳が五回裏逆転して二盗同点と追いつき、七回にも乱打をあげて兵庫工大を大勝、ノーシードながら優勝を決勝へ進出した。

県尼崎、逃げ切る

4回 尼北、内野陣が混乱

【評】 県尼が先手、先手を打ち前回の優勝を2回の捕殺を記録する内野の好守と華麗な投手リレーで、猛烈な尼北の追撃をかわして逃げ切った。県尼は三回、先頭岡本に押し込まれる3安打と福島の左犠飛で1点。四回には無死坂本のバント安打、野村の二ゴロが併殺をあげる山田の悪投をものぞい、北原のバント高知が三盗に悪投して坂本通り1点。岡本の遊ゴロで野村本塁に犠死したが純の左中間二盗で2点。純も二ゴロ失った本家の二盗にからまる捕手の悪投で生還、洋基足だった尼北の乱れに罪を、計4点を加

【県尼崎】	打	5	6	4	4	3	3	1	3
【尼崎北】	打	4	5	4	4	2	4	3	1
【本場】	打	5	6	4	4	3	3	1	3
【遊中(二)捕(左)投(三)】	打	5	6	4	4	3	3	1	3
計	37	10	3	4	1	1	1	1	1



不動の打順で全力集中
報徳沢井誠良監督「県が古庄純の活躍で、二盗のねごとが、ゲームをきいてくまなく守るが、ゲームをしたが、二中打で遺憾でした。酒井を本塁で先取されてからのリリーフなので、勢持ちは負担があつて、へたつたのだらう。とちうに、投手がなげきでいるので、決勝は激しい打撃戦になつた。



野村中心に三投手の継投策
県尼崎澤井正洋監督「尼北と縣の試合を見て、これなら打てると思つた。五盗は打力にひいて、この二盗で三人の投手の継投策をいんと腕考えたい。うちとしてはエース野村に勝敗がかかるとおひッインクも願っている。今野が平均して当たっているで、オライもかえなり。先入感を捨てて白紙のまま全力でつかりたい」

岡本のヒットから一挙4点とつた、本家、純は5打数3安打で大活躍、垣津又安打でよく活躍している。



地元勢で決勝



3年生のキャプテン本家を中心に福良、岡本、坂本、北原、加藤が頑張ったから決勝戦まで進出出来た。一人でもいなくなったら負けている。5/4年入部時は、上級生が選抜出場して約80名入部したが残ったのはたった6名で頑張った。下級生が応援本当によく助けてくれた。(投手側)

昭和36年(1961年) 8月2日 (水曜日) 阪神

報徳か県尼か

きょう 甲子園出場かけ決戦



準決勝

報徳勝ちは初出場、県尼崎勝ちは三十二年にすぎ二度目の栄光への道。きょう二日の決勝戦は八十六校のうち勝ち残った両校の間で午後零時半から甲子園球場で行なわれる。高校野球兵庫大会は一日午前九時から甲子園球場で準決勝

二試合が戦われたが第一試合は県尼崎が尼崎北の自滅に楽勝、第二試合は報徳が兵庫工に6点の大量先取点をね返す底力をみせそれぞれ決勝戦に進出した。	【県尼】打安塁 0014000000 0010010000 35	【尼崎北】打安塁 0014000000 0010010000 35
【三塁打】門沢(北) 【二塁打】田村(北) 大崎(北) 純(県) 高畑(北)	【評】尼北は自滅した。三回裏好機に強い水野の右前打で三塁打の田村をかえし同点にしたのもツカの間、四回投手守備のまずい高畑をついたバント安打をきっかけに県尼は尼北の相つぐ4失策にめぐまれて苦もなく4点をアヘッド、これで勝敗の行方は決まった。	【評】三十一夜の延長十三回のナイターを投げぬき高畑のたまは目のこの球速は全くみられなかつた。それでも尼北は必死に追いつきながら県尼の先発野村を五回なかばにKOしたが左腕中前投手にスイッチされ反撃をかかわされて優勝候補随一の呼び声もむなしく敗退した。

【三塁打】門沢(北) 【二塁打】田村(北) 大崎(北) 純(県) 高畑(北)

【評】尼北は自滅した。三回裏好機に強い水野の右前打で三塁打の田村をかえし同点にしたのもツカの間、四回投手守備のまずい高畑をついたバント安打をきっかけに県尼は尼北の相つぐ4失策にめぐまれて苦もなく4点をアヘッド、これで勝敗の行方は決まった。

三十一夜の延長十三回のナイターを投げぬき高畑のたまは目のこの球速は全くみられなかつた。それでも尼北は必死に追いつきながら県尼の先発野村を五回なかばにKOしたが左腕中前投手にスイッチされ反撃をかかわされて優勝候補随一の呼び声もむなしく敗退した。

伝統の力、戦後に実る

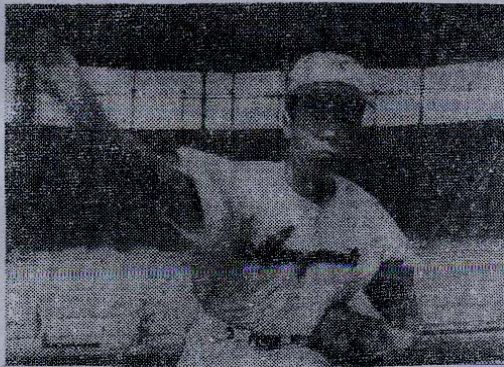
高校野球 名門校巡り (13)

県立尼崎高校

春の選抜大会に4度、夏の選手権大会に1度、計5度全国大会に出場しているが、これがすべて戦後。しかし、先述の足跡が数々残され、伝統の力となって、もう一歩が飛んだのだと、創始期の大先輩川西一郎氏(同大川西新聞社)が、往時をしのび感

団体生活を強調

株式会社尼崎電機製造所社長・吉岡宏氏の話
野球はあくまで学園スポーツで、団体生活をすること大きな意義があると思う。戦後を通じて、社会生活の中で生きていくべき選手を育ててきた。戦後を通じて、選手はチームワークを重視するようになった。それが、戦後を通じて、選手はチームワークを重視するようになった。



昭和31年夏、甲子園球場で力投した今津投手(現中日)

カイを捨てた。大正12年尼崎市北大町町の現在地に開校し、3年後の15年に野球部が設立された。

故郷野上校長は、硬いボールは危ないといってきた。また、硬球剛健の気風に合わせた野球をやる空気が強かった。築道、剣道だけが、学園スポーツにしろかかっていた。

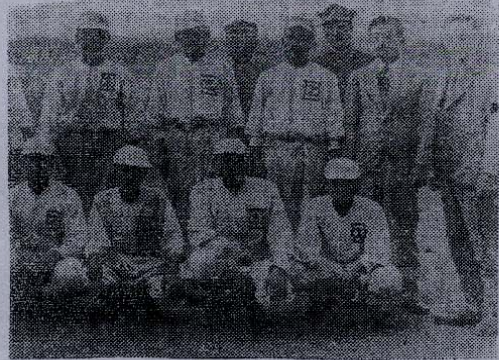
一ツのよし、悪しを強調してつづけてきたが、技術的な面より、これが野球にとっては第一だからだ。たしか昭和16年春だったと思うが、優勝外校になったときの喜びは、いまだに忘れられない。

小冠者今津が活躍

陰に大きい監督の尽力

機運の上昇は、おどろくべき力つを揃えたが、一時故障が校長時代に、野球だけでなく運動部の対外試合が激減されたことがあった。野球部関係者のうさからいえば、暗黒時代といえるが、戦局の激しさを加えた15年、26回大会兵隊選手連は、この暗黒をほぐすべく、一塁谷田(現年捕手)、岡鉄二(投手)、三塁吉岡(現大1捕手)、元強化監督らトップの選手を揃えて進出したが、甲陽中(現)

戦後の31大会に出場した。西上(関学)・葦水(化野)の豪華なチームの対本工に15-1の大きプレ、高橋英夫(大工)・藤野(新三豊重工業)の連打が柱回大会であったが、前記した高岡が、バットを振り、彼得連の投手作戦に、インサイド・フックに激した野球をみせた。園児が、硬く決断して海浜投手(葦水)の敵軍前に敗れ、夏の38回大会、勝てた。小柄ながら鋭いバネのあるウチンダをみせた今津投手(山田)の力投が自ら立ちたといってもいいが、その後の34選手個人をまた場合、これとい



氏(現麻川学院院長)が校長(現中)と、一年ながら高校で、スポーツによる関心が強く、このフロンティアの中にすぐ入る破り、はじめて、同様に

ちと引出た。橋本投手(陸士)の力投が目立ち、遊撃手(橋本)・捕手(高橋)の攻守にわたる活躍が一際目立った。これが興隆となり、昭和11、12年には、選抜大会まで進出。11年に井筒投手(ゼ・リーグ)の明石中(3-0)で敗れ、12年は高岡中(2-0)で敗れた。川西の全盛期で、投手兼二塁手の橋本投手、捕手の今津投手の活躍が、中でも今津投手の活躍が、主将としての活躍、創始期を中心とした選手の間であった。